



3.弘峰さんが手掛けた桃太郎の鬼退治を題材にした飾り山は櫛田神社に2021年6月まで展示。 4.パラ卓球を応援する「Para Heroes」。5.干支の丑を描いた福岡の老舗銘菓の正月用デザインも担当。

どの制作も人形師たちが担当。「人形作りをするには企画、立案、デッサン、立体、ペインティングなど総合的な技術が必要です。手先の器用な技能集団が『人形師』だったんです。そこに戻りたい、そうでありたいという気持ちがある僕の中にあります」

博多祇園山笠も2020年は中止に。唯一、櫛田神社に奉納する飾り山の制作を弘峰さんと父である三代目が手掛けた。

「二基でもうれしい、ないと元気が出ないという地元の声を聞き、飾り山や飾られる人形たちの存在は、人の心に効くものなんだなあと実感しました」

同様の思いは、節句人形の依頼



三代目と弘峰さんのほか、3名のスタッフで数々の人形を制作。

中村 弘峰

なかむら・ひろみね 人形師。
1986年福岡県生まれ。大正時代より続く老舗「中村人形」の四代目。2021年は英雄像とユニフォームを掛け合わせた新シリーズ「働く人」を展開。秋に福岡市の工房横にギャラリーをオープン予定。
<https://www.nakamura-ningyo.com/>

そんな彼も2児の父。5歳の長男も絵を描くことが好きで、自ら五代目を宣言しているそう。2021年は新作と共に、多くの個展を開催予定だ。五代目初の自宅個展という新風も、その中に組み込まれそう。

現代の人々の祈りを、目に見える形にしたい

者からも感じたのだとか。

「無事に育つように、という切実な思いがより伝わってきました。以前より、人形とは人の祈りを形にしたもの」と思っていました。2020年の環境下でそれが確信となりました」

弘峰さんの代表作といえば、五月人形の再解釈として展開するスポーツシリーズ。伝統的な英雄像であった武者や金太郎が、野球選手やジョッキーなど、現代のヒーローともいえるアスリートの姿に

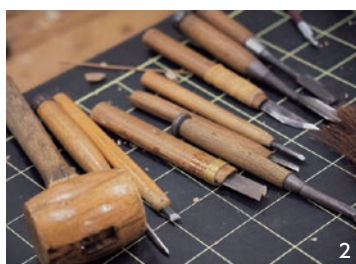
生まれ変わった。

「野球少年だった自分のために、社風を表すシンボルにと、手に取る方もいらつしやいます。現代に生きる人の心や思いに適した形を、今後も提案していきたい」

弘峰さんは、こどもの頃から図画工作が得意だったそう。

「幼稚園の頃から父と風呂に入ると『あの小中高、東京藝大に進んで、少し外で修業して四代目に』と言われ続け、疑いも迷いもなく現在に至っています」

1.中村さんの代表作、スポーツシリーズのキャッチャー。中村さんの伝統的な技術によって現代のヒーローが細密に彩色されていく。 2.木彫り道具の数々。手になじむように柄などが削られていた。



博 多人形とは、柔和で繊細なフォルムと落ち着いた発色。特徴の素焼きの伝統的な人形。しかし、工房にお邪魔した際、人形師・弘峰さんの手にあったのは木彫りの鹿。博多人形のみならず、あらゆる素材のオブジェやポスター、ロゴデザインなどの制作と、

活動は多岐にわたる。

「明治のバリ万博以降『博多人形師』という言葉は広まりましたが、昔から人形だけを作っていたわけではないんです」と弘峰さん。例えば、700年以上の歴史を誇る奉納神事「博多祇園山笠」の山車をはじめ、手ぬぐいや扇子な

自分と世に問う。
未来の
「人形」とは、
「人形師」とは。

約400年の歴史を持つ博多人形。伝統工芸と現代アートの融合に挑む老舗「中村人形」の四代目・中村弘峰さん。現在の状況を通し、人形に抱いていたある思いが確信に変わったという。

photo:Tetsumasa Kasai
text:Makoto Yamada

